



写真19 道の両側に広がる公園？と空地。

5. 調査研究の結果（1）のまとめ

神戸・酒鬼薔薇事件の発生を支えた空間的環境的要因を明らかにするため、少年の首切り事件に先立って実行された連続少女殺傷事件の空間的特性について、事件現場の参加観察によって分析を行った。結果として、大きく注目すべき13の特徴（Point）が抽出された。

- （1）通学路の幅員の狭さ（回避行動の制限＝Point1）
- （2）通学路片側の斜面による壁の形勢（回避行動の制限＝Point2）
- （3）団地街での住棟の配置位置の無計画さ（視線監視性の劣性＝Point3）
- （4）通学路片側の団地植栽による壁の形成（回避行動の制限＝Point4）
- （5）団地街からの視線遮断壁面の形成（視線監視性の劣性＝Point6）
- （6）団地住棟による視線遮断壁面の形成（視線監視性の劣性＝Point7）
- （7）定常的な人気の無さ（空間の相対的な脆弱性＝Point8）
- （8）歩道の幅員の狭さ（回避行動の制限＝Point9）
- （9）歩道片側の斜面による壁の形成（回避行動の制限＝Point10）

- (10) 歩道片側の崖の形成（回避行動の制限＝Point11）
- (11) 団地街での住棟の配置位置の無計画さ（視線監視性の劣性＝Point12）
- (12) 計画性なく交差する小街路の形成（形成される迷路性＝Point13）
- (13) 無目的で無計画な小空地の存在（点在する空間の無有責性＝Point14）

これらの空間的特性＝酒鬼薔薇事件を生じた空間的脆弱性を示す14点全体を通して眺めると、要約して以下の様な問題点の指摘ができる。

ア．団地街区の初期設計段階における問題

- ・道路形状の問題（歩道幅は、今回の様な事件の発生にどの程度の誘発原因を持つのか。また、今回の様に被害者が加害者に襲撃された際に、回避可能な幅員の歩道とは、どの位の幅の歩道か。また、その歩道は、歩車道の分離は必要無いのか）
- ・道路造成法の問題（山を削り、道を通すだけでよかったのか。特に歩道が安易に造られたのではないか）
- ・道路配置の問題（縦横に走る小街路は、このままで良いのか。通学路の位置は、団地住棟との関係からみて良かったのか）
- ・住棟配置、住棟の向きの問題（周縁空間と関係性を形成しようと思図しない街区・住棟造りでよいのか）

イ．団地街区の現在段階における問題

- ・公園、道路環境の維持管理の問題（不審者を注視する視線が遮断されるような植栽、管理者が不明な公園等は問題ではないのか）
- ・点在する小空間に対する有責感の希薄化（こうした小空間の存在を許す住民の間でコミュニティ意識の希薄化が進んでいるのではないか）